

公表

事業所における自己評価総括表_放課後等デイサービス

○事業所名	インクルー相模大野南口教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 13日		2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 10日		2026年 3月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、介助の仕方や応用のポイント等、学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋がられる。	運動研修に参加することで、補助の仕方やサポートの動きを理解し質の向上を挙げている。	今後も運動研修を実施し、職員間で理解する。欠席し受けられなかった職員にも内容や補助の仕方等のレクチャーを受け、共通理解を図る。
2	学習支援と療育支援の教室を明確に分け、それぞれの目的に応じた環境設定と取り組みを行っている。	個々の発達段階や特性に応じた支援を行うことで、集中しやすく効果的な学習環境・療育環境を提供している。	毎朝行っているミーティングを通して利用児の様子や現状の意見交換・情報共有を行い、支援の内容の向上に繋がるよう努めている。
3	駅に近く通いやすい立地にあり、自立に向けた自力通所の支援が可能である。公共交通機関を利用した外出体験も実施している。	自力通所が可能な利用者に対しては、アクシデントを想定し、連絡方法や対応の手順を事前に共有することで安心して通所できる体制を整えている。 高校交通機関を利用した外出活動では、事前学習(マナー・乗車方法)を取り入れ、実体験を通して社会性や自立性の向上を図っている。	保護者とも連携し、緊急時の連絡体制や対応フローをおり明確にすることで、安全性と安心感の向上に繋げる。 外出策のバリエーションを増やし、買い物体験や公共施設の利用など、より実生活に即した体験の機会を充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	乗車スペースとされている駐車場が少ない事、中には路駐の学校もあり、他事業所の車両も多い為、場合によっては駐車に時間がかかり引き取り時間が遅くなってしまう事もある。	駐車スペースの物理的な制約加えて、他事業所との送迎時間が重なることにより、混雑が発生している。	引き続き、職員が一人下車し、安全面および円滑に利用児を受け入れられるよう配慮するなどの工夫をする。
2	学校送迎の時間が重なってしまうことがあり、ドライバー職員人数にゆとりがあることが望ましいと感じる場面がある。	送迎時間帯の集中により、人的配置に余裕が持たにくい状況が生じってしまう時がある。	送迎時間の事前共有を行い、職員間の連携を強化する。 加えて、時間がタイトな送迎においては、学校へ事前に連絡を行い、遅れが生じる可能性について予め連絡を入れることで、円滑な受け入れにつなげている。
3	教具について、一定程度整備されているが、発達特性や発達段階、年齢に応じた充実度については、今後さらに整備していく必要がある。	現状の教材は活用できているが、発達段階や特性に応じたバリエーションや選択肢の幅が十分とは言えないことが要因だと考える。	発達統制や発達段階に応じた教具を作成できるものは作成し、導入していくとともに支援計画に基づいた活用を進めていく。また、職員間で情報共有を行い、支援の質の向上につなげていく。

事業所における自己評価総括表

○事業所名	インクルー相模大野南口教室		
○保護者評価実施期間			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0 (回答者数)	0
○従業者評価実施期間	2026年 3月 10日 ~ 2026年 3月 17日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○訪問先施設評価実施期間	~		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	0 (回答数)	0
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心して相談や情報共有ができる環境整備を進めており、保護者や関係機関の意向を尊重した支援体制の構築を行っている。	訪問支援の開始に向けて、職員研修や報告体制の整備を進めており、支援の質の担保と標準化を図っている。	サービス開始後は、保護者および訪問先からの評価・フィードバックを積極的に収集し、支援内容の継続的な改善に繋げていく。
2	利用児の発達段階や特性に応じた支援が行えるよう、事前のアセスメント体制や訪問支援の設計を整備している。	保護者や訪問先との連携を円滑に行うためのアセスメント様式や情報共有フローの構築を行っている。	訪問先との連携を強化し、継続的かつ一貫した支援が提供できる体制を確立していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	時点で訪問支援の実績がないため、実運用における課題の把握が十分ではない。	サービス提供が未開始であるため、実際の訪問支援における情報共有や業務フローの検証が未実施である。	試験的な訪問支援の実施やロールプレイ等を通じて、運用面の課題抽出と改善を進める。定期的なミーティングや振り返りの機会を設け、スムーズなサービス開始に向けた体制強化を図る。
2			
3			